

学位論文要旨

学位論文題目

中日中学校美術教育における課程改革及び課程資源に関する考察

21世紀に入って中国社会の最大の関心事の一つは教育課程改革であった。1999年、教育部は『21世紀に向かう教育振興行動計画』を制定した。この計画のキーワードは「素質教育」である。その中では、従来の受験対応教育を目的とする教育思想が改革の対象となつて、市場経済に適応する人間を育成するための素質教育が現れた。この「素質教育」という新しい教育方針は、従来の系統的かつ教授的な授業から問題解決方法を導入して児童生徒の主体的な学習を促すものである。美術科もその方針のもとで大幅に改訂されているところである。2001年6月に公布された新しい美術課程標準による美術科教科書の編纂とそれを実施することが中国全土で行われている。素質教育思想を貫くためには、美術科の教科書や多種多様な課程資源の活用が必要となる。今回の美術教育課程改革に応じて、教科書や課程資源に関する本研究は現実的な意義を持っているものと考えられる。

中国は国土が広くて、人口も多く、また、多民族国家であるなどの理由により、経済と教育は依然として地域的に不均衡な状態にある。例えば、中国沿海部では専用の美術教室とマルチメディアの設備が完備している学校があるが、一方、内陸の農村部では黒板とチョークだけしかない学校もある。美術課程改革の推進においては、子どもの健全な人格を発達させるためにどのような内容の美術教育を行うべきか、それを形成するために、学校や社会はどのように支えるべきかが緊急の問題となっている。また、教科書や美術課程資源の開発や利用について、現場の教員の認識と能力にも若干の課題があり、多くの美術課程資源はまだ十分な開発やその利用がなされていない。さらに、開発された美術課程資源に適切な検討が加えられていない面もみられることから、授業での効果的な活用については、今後解決すべき課題であると考えられる。

そこで、本研究では、これまでの中国における美術教育に関する研究を踏まえ、それぞれの研究においては、明確にされていなかった中学校美術教育課程改革の課程資源の開発や活用に関し、中学校段階で適切に使える美術教材や資料集などについて検討するものである。その際に、日本における中学校美術教育の実践化に関する考察を通して、教科書や資料集の特徴、また、美術学習指導要領と教科書や資料集との関連性を探りながら、美術学習指導要領を実践化するための方法を参考にしたい。特に、「地域文化の利用」「美術館の活用」「民間美術の大切さ」の三つの点に焦点を当て、美術教育課程資源としてのそれぞれの開発や活用についてより深く検討する。さらに、今回の中国の美術教育課程改革

を実施する際の問題点や解決法を探究する。

論文の構成：まず、序章で本研究課題を設定する理由について述べ、本論の中でキーワードとなっている教材や課程資源の概念を説明し、研究目的や方法を明らかにした。

第1章において、中国における基礎教育改革や美術教育課程改革に関する先行研究を分析し、現在の基礎教育や教育改革の状況及び新しい美術教育課程改革の内容を述べ、今回の改革の特徴を考察した。また、新しい美術課程標準を実施する現状を分析し、今回の美術課程改革の狙いは従来の伝統的授業での児童生徒への受動的な教育方法を改め、児童生徒の主体性が重視されることを示した。授業内容においては、美術課程と生活との関連が重視される。それと同時に、課程内容の柔軟性を強調し、美術教員に現地の美術課程の資料の開発やそれなどを利用する選択の余裕が与えられるようになった。さらに、今回の改革による芸術課程標準を示し、新しい美術課程標準との相違を明らかにした。

第2章では、1949年中国の建国以来の美術教育課程改革の変遷を述べ、その内容と発展過程の特徴を検討した。また、日本の戦後の美術教育課程の変遷を述べ、各段階の内容やそれぞれの特徴についてまとめた。その結果としては、2001年から中国で始まっている美術教育課程改革は“美術の教育”から“美術を通しての教育”に転換していることを示した。一方、戦後日本の美術教育課程改革は“経験主義課程”から“科学主義課程”へ、そして“人間主義課程”へと転換されてきたことを明らかにした。

第3章では、日本における中学校段階の美術教育の現状を分析し、美術学習指導要領の実践化について事例分析を行った。また、美術課程資源の利用や活用、美術学習指導要領と教科書や資料集との関連性を探りながら、教材の開発例を挙げ、美術課程資源としての美術館の利用、学校行事及び地域社会との連携を見出した。特に、美術館と学校との連携方法を明らかにするため、山口県立美術館において聞き取り調査を行い、学芸員の学校への派遣、美術館での鑑賞及び教員研修、情報センターとの具体的な連携事例を調査分析した。さらに、美術科の資料集を編集することも不可欠であると認識した。

第4章では、現在の中国の素質教育の特徴、中学校美術教育の現状を分析し、経験や教訓を汲み取りながら、問題点また解決されていなかった点を探り、問題解決のめどや方法を提起した。また、中学校の美術課程資源として、よく利用されている美術教科書に関して分析し、中日の比較をした。さらに、日本と中国において、国情の違い、国の体制や教育制度の違いにより、美術課程標準を実践化するための課程資源の開発や利用も異なっていることを踏まえ、都市部や農村部、地域また少数民族地域に活用できる課程資源の開発や利用法について検討した。結果としては、中国での活用の可能性として、「美術館・博物館の活用」、「民間美術の重要性」、「少数民族文化の利用」の三つの提案を取り上げた。

第5章では、中日中学校美術教育における課程改革及び課程資源の開発についての考察をま

とめた。その際、美術科教員の研修、新しい美術課程標準に応じた新たな評価観、生活と美術科との関わりについての考えを述べた。また、今後の美術課程資源を開発する際、美術科の学力低下を防止するため、美術技能を重視する面で美術そのものの教育に関する展望を述べた。